

学 位 名	博士（臨床心理学）	研 究 科 攻 専	心理学研究科 臨床心理学専攻
学 籍 番 号	07912203	氏 名	手島 茂樹
学 位 論 文 題 目	生活分析的カウンセリング法の心理教育的活用に関する研究		
審 査 の 結 果	合格 ・ 不合格		
学 位 授 与 年 月 日	平成 26 年 3 月 21 日		
審 査 委 員 会	【審査委員長】 鶴 光代 教授 【審査委員】 中里 克治 教授 【審査委員】 太田 信夫 教授 【審査委員】 松原 達哉 特任教授		

《論文審査の結果の要旨》

本論文「生活分析的カウンセリング法の心理教育的活用に関する研究」は、大学生のチューデント・アパシー対策として開発された生活分析的カウンセリング法（Life Analytic Counseling Method、以下、LAC 法）を、学生から成人への適用に広げ、個人カウンセリングから心理教育的活用へと発展させた研究である。

本研究は、LAC 法とメンタルヘルスとの関連性を明らかにすべく、看護師（247 名）、養護教諭（145 名）、中学生をもつ母親（63 名）等を対象に、LAC 法で求められる「すべきこと」、「したいこと」の記述がメンタルヘルスにかかわるか否かを検証している。対象者に、LAC 法を実施し、いきいき度テスト（津田・田中，2006）を用いて重回帰分析を行った結果から、LAC 法における「すべきこと」、「したいこと」は、いきいき度を規定していることを明らかにした。

次いで、LAC 法を心理教育的に活用した場合の効果について、①新人の看護師（28 名）、②中間管理職者実証的（36 名）、③中学生を持つ母親（4 名）を対象に、LAC 法を実施し、メンタルヘルスを測るいきいき度尺度や新人看護師職務ストレス尺度、セルフ・エフィカシー尺度、EQS（情動知能スケール）、FDT（親子関係診断検査）を用いて測定した結果から、その心理教育としての有用性を実証的に明らかにした。LAC 法による職種別のメンタルヘルス効果の特徴を明らかにすると同時に、LAC 法によって対象者がその役割に求められている行動を行えるようになることを示している点で、心理臨床研究上、独創的で貴重な研究となっている。

本論文は、生活分析的カウンセリング法という方法を用いて、心理教育や臨床心理場面で、これまで適用されていなかった領域に幅広く活用し、その効果を実証的に明らかにしたものとして高く評価され、博士（臨床心理学）論文として、十分評価に値するとの結論に達した。